

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

(令和5年度決算版)

入間市 下水道事業

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

投資計画 (中長期経営計画【中間評価・見直し】P2~3「基本方針1 事業の選択と集中 基本施策1」)

①改築事業 (老朽化対策及び不明水対策)

下水道施設の維持管理を図るため、老朽化した管路施設の計画的な改築事業や不明水対策事業を実施します。

■汚水の改築事業費 (更生、布設替え) (工事費のみ)

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	92	169	167	327	327	150	116	122	147	106	1,723
実績値	70	108	85	121	127	109	184	-	-	-	-
差異	△22	△61	△82	△206	△200	△41	+68	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

令和5年度は、更生工事4件と前年度からの繰り越し工事2件を含む布設替え工事3件の計7件の工事を実施しました。評価としては、工事件数が増加したことや建設資材の高騰等の関係から、実績値が高いものとはなりましたが、計画どおり、下水道管路施設の適切な維持管理を図れたものと考えています。

■雨水の改築事業費 (更生、布設替え) (工事費のみ)

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	154	154	0	0	0	0	0	308
実績値	5	0	0	6	5	0	0	-	-	-	-
差異	+5	±0	±0	△148	△149	±0	±0	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

対象となる事業の予定がなかったことから、実績はありません。

■有収率【目標値設定あり】

[担当課：下水道施設課]

管渠更生などを行うことで管渠に流入する不明水の量を削減し、有収率の向上を図ります。

(単位：%)

	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値				R03年度 (前期計画最終年度)⇒			92.0	R08年度 (後期計画最終年度)⇒			92.0
実績値	88.4	88.6	90.2	80.0	86.0	93.1	93.4	96.3	-	-	-
差異	-	-	-	-	-	+1.1	-	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

令和4年度に続き、汚水処理費の対象となる不明水量が減少したことで、前年度に比べ2.9ポイント向上した結果となりました。
 向上した要因については、前年度に続き、大型の台風の上陸がなく、梅雨時期のゲリラ豪雨などの気象状況による不明水量の影響が比較的少なかったことに加え、老朽化対策による既存の大規模団地内等で実施の管渠更生工事などによる不明水量の削減効果が徐々にではありますが、表れてきた結果ではないかと推察しています。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

投資計画 (中長期経営計画【中間評価・見直し】P3「基本方針1 事業の選択と集中 基本施策2」)

②耐震対策事業

平成29年度に策定した「入間市下水道総合地震対策計画」に基づき、重要な幹線等として位置付けた管渠の内、重要度の高い箇所から順次耐震化を図ります。

■汚水の耐震対策事業費 (工事費のみ)

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	21	21	117	98	146	150	136	689
実績値	0	0	0	0	15	132	80	-	-	-	-
差異	±0	±0	±0	△ 21	△ 6	+15	-18	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

令和5年度は、工事2件と繰越し工事1件の計3件の工事を実施しました。評価としては、実績値がやや少なかったものの、工事数は予定通りで執行しています。工事の実施により管路施設の耐震性能が向上し、地震時における管路施設の機能確保が図れたものと考えています。

■雨水の耐震対策事業費 (工事費のみ)

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	6
実績値	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
差異	±0	±0	±0	△ 3	△ 3	±0	±0	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

対象となる事業の予定がなかったことから、実績はありません。

■耐震化延長【目標値設定あり】

[担当課：下水道施設課]

(単位：km)

	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08		
計画値		R03年度 (前期計画最終年度)⇒					17.0	R08年度 (後期計画最終年度)⇒					20.0
実績値	0.0	10.2	10.2	12.3	16.7	18.1	20.1	23.4	-	-	-		
差異	-	-	-	-	-	+1.1	-	-	-	-	-		

令和5年度決算における進捗及び評価

管路施設の耐震診断調査の結果、耐震性能を有していると判定された管路の延長が2,410.62m、耐震化工事を実施したことで849.59mが耐震化済みとなりました。
耐震診断業務を実施することで耐震性能を有している管路施設を把握することができ、診断の結果に基づき、耐震化工事を実施することが出来ました。
令和5年度末における「重要な幹線等」の耐震化延長は、23.4kmとなり前年度より3.3km増えたものとなり、地震対策が図れたものと考えています。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

投資計画 (中長期経営計画【中間評価・見直し】P4「基本方針1 事業の選択と集中 基本施策3」)

③新規整備事業

「汚水整備」

公共下水道（汚水）事業計画区域内の土地利用状況に応じて未整備路線に汚水管渠を整備します。

「雨水整備」

雨水管渠の整備については、雨水の排水先である河川の改修工事が完了している必要がありますが、改修工事が完了していないため、雨水の吐口を新たに設置することや、既に設置されている吐口の形状を大きく変えることが困難な状況となっています。そのため、令和8年度までに新たに雨水管渠を整備する計画はありません。

■汚水の新規整備事業費（工事費のみ）

[担当課：下水道施設課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	31	24	20	40	40	67	33	33	33	33	354
実績値	19	21	16	7	16	25	7	-	-	-	-
差異	△12	△3	△4	△33	△24	△42	△26	-	-	-	-

□参考：汚水の新規整備延長

[担当課：下水道施設課]

(単位：m)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	480	360	310	620	620	700	300	300	300	300	4,290
実績値	130	193	138	26	96	231	46	-	-	-	-
差異	△350	△167	△172	△594	△524	△469	△254	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

令和5年度は、実績値が大きく下回ったものとなりました。新規整備については、土地の利用状況に応じた対応となるため、計画どおりとはならず、計画値と実績値に差が生じてしまう状況となっています。計画値を下回った結果ではありますが、土地利用に併せ整備は出来ているため、公共用水域の水質保全の確保が図れたものと考えています。

■雨水の新規整備事業費（工事費のみ）

[担当課：下水道施設課]

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実績値	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
差異	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

対象となる事業の予定がなかったことから、実績はありません。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

財政計画 (中長期経営計画【中間評価・見直し】P5「基本方針2 財源の確保 基本施策1、基本施策2」)

①下水道使用料

下水道使用料は、本計画期間中において、現行水準を維持することを前提とし、今後の人口減少やお客様の水需要の動向に充分留意していきます。

■使用料収入

[担当課：上下水道経営課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	1,345	1,344	1,344	1,341	1,339	1,345	1,338	1,328	1,319	1,309	13,352
実績値	1,358	1,361	1,351	1,364	1,363	1,343	1,327	-	-	-	-
差異	+13	+17	+7	+23	+24	△2	△11	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

令和5年度の下水道使用料収入(税抜き)は約13億2,700万円となり、前年度決算額と比較すると、額で約1,600万円、率で1.18%下回りましたが、ほぼ前年度並みの収入が確保できました。
 また、計画値と比較すると、額で約1,100万円、率にすると0.82%の微減となり、概ね計画通りとなっています。
 下水道使用料の傾向としては、昨年度と比較すると令和5年度は減少となりました。今後においても下水道使用料の減少が想定されるため、使用料収入に大きく影響する大口使用者の動向、使用者の節水努力や節水器具の普及などによる水需要の変化に引き続き注視する必要があります。

②一般会計補助金(一般会計繰入金)

下水道事業にとって一般会計からの補助金は事業を運営する上で貴重な財源ではありますが、公営企業の経営は独立採算が原則であることから、引き続き計画に基づき一般会計部局と協議した上で徐々に削減を図って行きます。

■一般会計補助金

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	303	284	293	266	248	228	218	209	198	188	2,435
実績値	288	267	231	268	243	226	228	-	-	-	-
差異	△15	△17	△62	+2	△5	△2	10	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

令和5年度の一般会計補助金は、前年度決算額と比較すると約200万円微増の約2億2,800万円となっており、計画全体を通じて補助金の抑制を図ることができました。また、計画の中で見込んだ額を1,000万円上回る補助額となりましたが、これは雨水処理負担金と一般会計負担金と補助金を合わせて一般会計と調整して予算化しており、各負担金について決算により予算との差額が発生した分が補助金として計上されたことによるものです。引き続き、一般会計との調整の上、補助金の繰り入れ額の確保に努めていきます。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

財政計画

(中長期経営計画【中間評価・見直し】P5「基本方針2 財源の確保 基本施策3」、P16「3 今後収支見通し(総括)」)

③企業債

各年度の予算編成においては、予定した利益の確保に努めるとともに、内部留保資金の状況を見ながら企業債残高の計画的削減に取り組めます。

■企業債発行額

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	163	213	362	390	400	400	218	147	195	114	55	2,494
実績値	132	124	170	177	315	245	158	91	-	-	-	-
差異	△31	△89	△192	△213	△85	△155	△60	△56	-	-	-	-

■企業債償還金

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	-	797	778	757	736	690	659	606	560	514	464	6,561
実績値	811	797	778	754	732	686	656	602	-	-	-	-
差異	-	±0	±0	△3	△4	△4	△3	△4	-	-	-	-

■企業債残高

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	-
計画値	8,302	7,718	7,301	6,935	6,598	6,308	5,219	4,760	4,395	3,996	3,587	-
実績値	8,271	7,597	6,989	6,412	5,995	5,554	5,056	4,546	-	-	-	-
差異	△31	△121	△312	△523	△603	△754	△163	△214	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

令和5年度の借入額は9,100万円となり、計画上の発行限度額である1億4,700万円以内に抑えることができました。また、当該年度の償還元金6億200万円を下回っています。

企業債残高は、令和5年度末で約45億4,600万円となり、令和4年度末の50億5,600万円と比べ、5億1,000万円の減少となります。なお、令和5年度末の企業債残高が計画値に比べ2億1,400万円少ない要因としては、平成28年度～令和5年度の企業債発行額が計画値より少なかったことが影響しています。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

財政計画

(中長期経営計画【中間評価・見直し】P6「基本方針2 財源の確保 基本施策4」、P16「3 今後収支見通し(総括)」)

④自己資金(内部留保資金)

財政基盤を強化し健全な経営を維持するため、令和8年度末残高を7億円確保する計画としておりましたが、大規模地震等による災害を踏まえ、災害復旧に備える費用などを加え、確保すべき水準を11億円以上に設定します。確保すべき水準の算出は、当面の間に現金支出として支払う必要がある費用と、災害復旧に備える費用の合計額の6ヶ月分としています。

将来の改築事業等への資金確保を目的として、内部留保資金が確保すべき水準を下回った場合、企業債の更なる活用、下水道使用料の適正な水準等について改めて検討を行うものとしします。

■現金預金(年度末残高)

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値	300	356	469	649	513	421	1,260	1,252	1,273	1,286	1,379
実績値	404	768	750	896	1,209	1,544	978	1,107	-	-	-
差異	+104	+412	+281	+247	+696	+1,123	△ 282	△ 145	-	-	-

□参考：流動比率

[担当課：上下水道経営課]

(単位：%)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値	-	45.8	62.1	88.2	74.4	63.6	191.2	206.6	227.3	250.2	297.2
実績値	56.9	80.7	93.6	118.8	163.1	206.8	140.0	162.4	-	-	-
差異	-	+34.9	+31.5	+30.6	+88.7	+143.2	△ 51.2	△ 44.2	-	-	-

■損益勘定留保資金(年度末残高)

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値	172	210	289	454	396	323	981	842	831	861	749
実績値	183	365	444	674	954	1,288	1,391	1,528	-	-	-
差異	+11	+155	+155	+220	+558	+965	+410	+686	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

令和5年度決算時点の貸借対照表における現金預金残高は約11億700万円であり、計画値を約1億4,500万円下回っています。これは、資本的収支において僅かではありますが収支不足額が少なく済んでいることによるものです。

短期的な支払能力を示す流動比率は、令和5年度決算では162.4%となり、計画値に比べ44.2ポイント下回っています。昨年度有価証券を購入したことにより流動比率が減少しましたが、昨年度の同比率に比べて22.4ポイント回復しております。これは先に述べた理由等により現金預金残高が増加したことや流動負債において企業債が減少したことが比率を増加させた要因となります。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

投資・財政計画

(中長期経営計画【中間評価・見直し】P14~17「3 今後収支見通し(総括)」)

①収支計画

[担当課：上下水道経営課]

■収益的収入

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	2,310	2,319	2,315	2,283	2,260	2,317	2,286	2,262	2,224	2,202	22,778
実績値	2,318	2,335	2,338	2,346	2,291	2,289	2,277	-	-	-	-
差異	+8	+16	+23	+63	+31	△28	△9	-	-	-	-

■収益的支出

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	2,238	2,212	2,194	2,239	2,235	2,252	2,250	2,239	2,191	2,191	22,241
実績値	2,168	2,130	2,158	2,130	2,087	2,093	2,114	-	-	-	-
差異	△70	△82	△36	△109	△148	△159	△136	-	-	-	-

■当期純利益

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	71	106	120	43	24	64	35	22	32	10	527
実績値	149	205	180	217	204	196	163	-	-	-	-
差異	+78	+99	+60	+174	+180	+132	+128	-	-	-	-

■資本的収入

(税込み表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	255	372	402	449	453	306	238	300	194	136	3,105
実績値	166	177	197	354	294	251	162	-	-	-	-
差異	△89	△195	△205	△95	△159	△55	△76	-	-	-	-

■資本的支出

(税込み表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	1,150	1,255	1,235	1,559	1,513	1,375	1,192	1,220	1,127	956	12,582
実績値	986	1,105	1,028	1,125	1,051	1,241	1,106	-	-	-	-
差異	△164	△150	△207	△434	△462	△134	△86	-	-	-	-

■資本的収支不足額(補填額)

(税込み表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	895	883	833	1,110	1,060	1,069	954	920	933	820	9,477
実績値	819	928	831	771	757	991	944	-	-	-	-
差異	△76	+45	△2	△339	△303	△78	△10	-	-	-	-

令和5年度決算における進捗及び評価

収益的収支では、収益的収入が22億7,700万円、収益的支出が21億1,400万円となり、その結果、当期純利益約1億6,300万円を計上することができました(金額は税抜き)。収益的収入は、計画値に比べ下水道使用料等が下回った影響等により、全体で約900万円下回りました。一方、収益的支出では汚水処理費、管渠等の維持管理をするための経費や減価償却費、支払利息が下回った影響等により、全体で約1億3,600万円下回りました。この結果、当期純利益は計画値に対し1億2,800万円上回ったものです。

資本的収支では、資本的収入が1億6,200万円、資本的支出が11億600万円となり、資本的収支不足額は約9億4,400万円となりました(金額は税込み)。計画値と比較すると、資本的収入は企業債借入額が下回った影響等により、全体で約7,600万円下回りました。一方、資本的支出は、計画値に比べ管渠を新設・改良するための事業費や流域下水道への負担金が下回った影響等により、全体で約8,600万円下回りました。この結果、資本的収支不足額は計画値に対し1,000万円下回ったものです。

今後の事業運営についても、引き続き中長期経営計画を基に計画的に運営していきます。

人間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

効率化・経営健全化の取組 (中長期経営計画 P81～82「第4章 効率化・経営健全化の取組」)

下水道事業の効率化・経営健全化の取り組みについては、目標達成のための具体的施策について、実施すべき事業内容、整備目標水準を明確にし、効率的かつ効果的に実施します。

①組織、人材、定員、給与に関する事項

計 画	令和5年度決算における進捗及び評価
<p>事業管理に必要な補完体制の確立、技術力の維持・継承のため、上下水道部の利点を活かした具体的な補完体制や必要な執行体制を検討します。また、脆弱な管理体制を避けるため、地方公営企業として継続するための人員確保および職員の意識改革と計画的な人材育成を実施します。なお、人員構成については、今後の更新事業に対応するため、事務職員・技術職員間で減員・増員が可能か検討します。</p> <p>[担当課：上下水道経営課、下水道施設課]</p>	<p>各種研修会に多く参加し、下水道に関しての知識の習得に努めるとともにOJTを実践し、技術や知識の継承を図りました。</p> <p>また、課・担当内において定期的な打合せを行い、業務の進捗状況や業務スケジュール・課題等を共有するなどし、業務の効率化を図ったほか、新たな問題等に対し課一丸となって取り組むような体制づくりの構築に努めました。</p>

②広域化・民間資金、ノウハウの活用に関する事項

計 画	令和5年度決算における進捗及び評価
<p>本格的な人口減少社会の到来が見込まれているため、効率的な施設管理として既存施設の活用、水道等他分野との連携、行政界を超えた複数の各地方公共団体間における地域的な連携による広域化・共同化を検討します。</p> <p>[担当課：上下水道経営課、下水道施設課]</p>	<p>埼玉県下水道推進協議会や荒川右岸流域下水道維持管理連絡協議会に参加するなど、他市との意見交換や情報収集を積極的に行いました。</p> <p>また、PPP導入の研究として、先進導入自治体への視察を行いました。引き続き、情報収集に努めています。</p>

③その他の経営基盤の強化に関する事項

計 画	令和5年度決算における進捗及び評価
<p>将来の更新財源の確保や人口減少等による使用水量の減少の見通しを踏まえた使用料収入とします。施設の計画的な点検・調査及び改築・更新を促進するため財源の確保に努めます。</p> <p>平成27年度に地方公営企業会計を導入したことにより、財務諸表である損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー等を活用し、経営の見える化によるアカウンタビリティーの向上を促進します。今後も汚水処理費の削減、適正な使用料収入に努め、回収率の向上を図ります。</p> <p>[担当課：上下水道経営課]</p>	<p>令和4年度決算の「財務諸表」に加え、近隣市や類似団体と比較可能な「経営比較分析表」についても、ホームページ等を活用し市民向けに公開するなど、経営の見える化に努めています。令和5年度の決算状況についても順次公開します。</p> <p>また、上下水道の組織を統合した利点を活かした事務の効率化等を推進し、経費の削減に向けた取り組みを実施しました。</p>

④資金に関する事項

計 画	令和5年度決算における進捗及び評価
<p>安定した財政運営を行うため、総合資金収支に不足が生じないよう資金管理をします。</p> <p>[担当課：上下水道経営課]</p>	<p>今後、本格化する更新事業に備えて、令和5年度においても内部留保資金の醸成に努めました。</p> <p>引き続き、流動比率の向上に努めます。</p>

⑤情報公開に関する事項

計 画	令和5年度決算における進捗及び評価
<p>下水道事業の経営状況については、使用料及び税金等の形態で経営を支え、そのサービスの受益者である市民への公表が求められます。よって、下水道の役割に加え、経営状況など下水道の実態についても、市ホームページ、広報などで正しくわかりやすく伝えます。 [担当課：上下水道経営課、下水道施設課]</p>	<p>令和4年度決算に関する記事を掲載した「上下水道トピックス」を令和6年1月に発行し、広報いるま1月1日号と共に各戸に配布しました。 また、「財務諸表」や「経営比較分析表」を市公式ホームページに公開しました。</p>

⑥その他の重点事項

計 画	令和5年度決算における進捗及び評価
<p>管路施設は特に重要な幹線等を優先的に耐震化するとともに、必要な機能確保を計画的、段階的に実施します。実施に先がけ、下水道管渠施設総合地震対策計画を策定します。 [担当課：下水道施設課]</p>	<p>令和5年度からの繰越工事1件を含む3件（マンホール耐震化6箇所、マンホール浮上防止2箇所〔うち1箇所本体更生含む〕）の工事を実施したほか、耐震診断調査を約5.0km実施しました。 令和5年度末における「重要な幹線等」の耐震化済み延長は、中長期経営計画の目標20.0kmに対し、約23.4kmとなっています。</p>
<p>管路の老朽化状況を踏まえ、布設替えや更生工法による長寿命化を実施します。 [担当課：下水道施設課]</p>	<p>大規模団地の開発に伴い布設された管路施設の改築工事を中心に、管渠更生工事1,848.14m、管渠布設替工事54.61mを実施しました。 改築工事を実施したことで、管渠の老朽化対策が進み、管路施設の適切な維持管理を図ることができました。</p>
<p>雨天時に汚水管へ流入する雨水による不明水は、処理費用の増加をまねくと共に、管路の流下を阻害するので、不明水の流入を防ぐ対策を講じ、有収率の向上を図ります。実施に先がけ、管路施設管理計画を策定します。 [担当課：下水道施設課]</p>	<p>令和3年度策定の雨天時浸入水対策計画に基づき、汚水管渠内のテレビカメラ調査を約1.0kmを実施しました。 本調査により、経年劣化による管渠内への浸入水の状況や施設の状態などを確認することができ、今後の対策に向けての成果を得ることができました。また、来年度より調査実施箇所において、管渠更生工事を着手する予定であります。</p>
<p>人口減少や高齢化が進展し投資余力が減少する中で、ストックの改築・更新の増大等を踏まえ、今後未普及対策への投資拡大はますます厳しくなるため、地域の実情に応じた早期概成方策の検討を進めます。 [担当課：下水道施設課]</p>	<p>現在の公共下水道事業は、施設を安定して継続使用できることを第一に、老朽化対策や地震対策などの既存施設の維持管理事業を推進しています。 新たに事業区域を拡大して公共下水道の整備を進めていくことは、下水道使用料にて運営している下水道事業全般に対して大きな負担となるため、現状としては、大変厳しい状況となっているものと考えています。</p>